

南の風パリ五輪女子日本代表特集号Ⅲ

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

予選ラウンド突破に向けて、崖っぷちの女子日本代表のベルギー戦です。

山本 麻衣選手はこの試合も脳震盪の影響で、ドイツ戦に続き欠場が決まっています。

スタートは高田、町田、林、宮崎、赤穂選手の5人です。ドイツ戦では立ち上がりランを作られ苦しい展開を強いられました。この試合は出だして先手を取り勢いをつけて、是が非でも流れを呼び込みたいところです。

1Q の立ち上がり宮崎選手のアシストから高田選手のシュートで先制する。その後林選手のジャンプシュート、宮崎、エブリン選手のフリースローで得点を挙げる。しかし3P シュートは7本放つがすべて決まらない。一方ベルギーは3本の3P シュートを沈めるとともに、シュートブロックなど堅守で日本の攻撃を防ぎ流れを渡さなかった。 **日本7対19ベルギーで1Q終了**

続く2Q、赤穂ひまわり選手がこの試合初めての3P シュートを沈めると、高田選手もポストプレーから得点を挙げるが、ベルギーの速いパス回しと高さに苦しみ点差を広げられる。それでも中盤エブリン、林選手の連続3P がヒット。その後もエブリン選手の力強いドライブや林選手のロングツ2（長距離の2Pシュート）で応戦するが、クォーター終了間際にベルギーに連続得点を許してしまう。

日本23対39ベルギーで2Q終了

迎えた3Q、開始から連続失点で点差は20点以上に拡大してしまう。苦しい状況でも高田選手が後半最初の得点を挙げると、本橋、東藤選手も続き、日本が連続6得点を挙げる。劣勢の中で本橋、東藤、エブリン選手が3P シュートを決め得点をつなぐが、ベルギーにインサイドで得点を重ねられ、点差を詰められず、 **日本39対61ベルギーで3Qが終了**

いよいよ最後の4Q。林選手が意地の3P シュートをヒットさせる。決勝トーナメント進出へ向けて攻撃の手を緩めないベルギーの猛攻を受けるが、町田選手の3P シュート、エブリン、本橋選手の得点で日本も奮闘する。試合終盤にも林選手のレイアップや、ステファニー選手のフリースローが決まるが、残念ながら大勢に影響はなく、 **最後は日本58対ベルギー85で敗れた**

《ベルギー戦主なスタッツ》

	F G	2 P	3 P	F T	DR	OR	TR	AT	TO
日本	31% 19/61	42% 10/24	24% 9/37	73% 11/15	22	10	32	16	15
ベルギー	49% 35/71	55% 26/47	38% 9/24	86% 6/7	32	13	45	30	13

スタッツから見えるものは、何といたっても3P シュートの確率の低さということになります。試投数37という数字は決して低くはありませんが、かなりタフな状態で打ったこと、また-37点という得失点差（予選を勝ち上げるための数字）も大きく影響していたと思います。2P シュートの成功率42%も物足りない数字ではありました。そしてアシスト数16（ベルギー30）という数字は、いい状態でパスを回すことができていることも表しています。DR（ディフェンスリバウンド）22というのはあと一息なのかなと感じました。死力を尽くした戦いでしたが予選敗退という結果となりました。

次号では予選の戦いを通して私の考えを書きたいと思います。